

第559回幹事会だより

9月25日(金) 於: 信之心

○ 尼崎支部の会員数

9/24 現在 医科 384 人、 歯科 168 人

○ 医療をめぐる情勢と運動対策

10月、インフルエンザ流行期に備えた発熱外来の設置を終えたはせがわ内科の見学会を兼ねた幹事会を開催すること、今後の支部幹事会の開催方法と支部企画について議論し、支部が加盟する渉外団体の新代表に綿谷支部長が就任したことが報告された。

○ 次回日程

10/17(土) 16:00～ はせがわ内科(阪急武庫之荘駅から徒歩3分)
お問い合わせは TEL 078-393-1805 沖野・石本まで



支部会員の先生方へ

未入会のお知り合いの先生、 ご子弟に入会を是非おすすめください

保険医協会は県下で7,600人以上の医師・歯科医師が入会し、安心して診療に打ち込めるよう支えあう、開業医自身がつくる団体です。医学の進歩と医療技術の向上、変化する医療制度への対応、怪我や病気など万が一の時の備えなど、開業医の診療、経営、生活を全面的にサポートします。勤務医の先生も県下で1,700人を超える先生方にご利用いただいております。

協会未入会のお知り合いの先生、ご子弟に是非、入会をおすすめください。



第97回評議員会・共済制度委員会・臨時決算総会

日時: 11月15日(日) 13:00～ 会場: 協会会議室

15:00～ ◆共済制度委員会・特別報告「コロナ禍の金融市場と生命保険業界」

横山裕輔 太陽生命保険株式会社法人営業推進部長

16:10～ ◆評議員会特別講演「菅新政権と社会保障政策の争点」

二宮厚美 神戸大学名誉教授

兵庫県保険医協会

尼崎支部ニュース

413号

2020年10月25日付

〒650-0024 神戸市中央区海岸通1-2-31
神戸フコク生命海岸通ビル5階 兵庫県保険医協会 尼崎支部
TEL078-393-1801 FAX078-393-1802

追悼 八木秀満先生

尼崎支部長及び協会副理事長や審査対策部長として長らく協会活動に貢献された八木秀満先生が6月29日、逝去された。支部では、尼崎社会保障推進協議会会長、アスベストの被害からいのちと健康を守る尼崎の会代表を務められ、地域に根差した活動にも積極的に取り組んでこられた。西原弘道副支部長の追悼文を掲載する。

八木秀満先生を偲んで

尼崎支部副支部長 西原 弘道



八木秀満先生(享年72歳)

1947年生まれ
1972年奈良県立医科大学卒業
1998年尼崎市にて八木クリニック開業
2001年6月～03年5月、
11年6月～17年5月 協会理事
2003年6月～11年5月 副理事長
2017年6月～ 副議長
2001年6月～11年5月 審査対策部長
2003年7月～ 尼崎支部長
2006年1月～12年1月 保団連理事

八木先生との出会いは16年前、私が開業した月に協会尼崎支部の幹事会にお誘いいただいたときでした。先生は支部長をされていて、保険診療というものを十分に理解していなかった私に、くわしく説明してくださいました。その幹事会が縁で、今日まで協会活動に参加させていただいております。

先生が特に力を入れておられたのが、審査・指導対策でした。保険医登録取消処分をめぐる裁判にも取り組むなど、不当な査定減点や保険医としての権利を侵害する理不尽な指導・監査に対して、敢然と立ち向かわれました。協会会員の代表として、国会要請行動はもとより、ありとあらゆる方面に、より良い保険診療のために声を発しておられたことには、頭の下がる思いでございました。

先生はまた協会会員のどんな些細なことにも丁寧に対処されていたことを、よく覚えています。理事会では、副理事長として、運営にご尽力されていたのが、つい
(2面につづく)

(1面のつづき)

先日のことのように思われます。

十数年前の尼崎支部総会で、映画「シッコ」の上映会を開催したとき、閉会のあいさつで、「今の日本の医療について、改革をせねばならない。そのために晩年を協会活動に捧げる」と、眼に涙をためて述べられたあの姿は、私にとって一生忘れられないものとなっています。

すばらしい先人を亡くし、残念でなりません。もっといろいろなことを教えていただきたかったです。私たちは先生のご遺志をついで、活動してまいります。

八木秀満先生、安らかにお眠りください。

ご冥福をお祈り申し上げます 幹事一同



八木秀満先生のご逝去を受け、7月31日開催の第49回支部総会で、綿谷茂樹先生が新支部長に就任した(前号既報)。鈴木克司支部幹事から応援メッセージを掲載する。

綿谷茂樹新支部長のご活躍に期待

支部幹事 鈴木 克司

このたび、故八木秀満前支部長の後を受けて綿谷茂樹先生が兵庫県保険医協会尼崎支部長に就任されました。私と同年の綿谷先生が就任され、6月から兵庫県医師会副会長に就任した自分同様、綿谷先生も医療担当者代表として社会に積極的にアピールしてゆかれることでしょう。

先生とは尼崎支部活動で一緒にいるだけでなく、尼崎市医師会理事会でも2004年4月から2013年6月まで10年間、役員としてウォーキングや生活習慣病予防のための教室など、市民向けのイベント等で大変お世話になりました。先生はその前から協会尼崎支部活動の中で高齢者をはじめとした地域の方々と接する活動をよくされていたと思います。綿谷先生は住民の方にごく近い存在としてどんどん支部活動を引っ張ってくださるでしょう。今後の先生のご活躍に期待します。

尼崎支部ニュースへの投稿を募集しています

日常診療にかかわることや、主張、趣味のお話などお寄せください。

TEL 078-393-1805 / FAX 078-393-1802

e-mail miki-o@doc-net.or.jp 担当: 沖野まで



© Can Stock Photo

尼崎社保協 2020年度定期総会

社会保障費抑制策の問題を学び 市民運動を前進させよう



綿谷茂樹先生が新会長に就任



講師を務めた井口克郎先生(写真上) 会場では活発な質疑が交わされた(写真下)

尼崎支部が加盟している尼崎社会保障推進協議会は、10月3日(土)に尼崎市小田南生涯学習プラザホールで2020年度定期総会を開催、市民ら38人が参加した。

議事では小林事務局長が、2019年度の取り組みとして、幹事会で「リレー座談会」を開催して「生活保護受給者の訪問診療問題」「中学校給食の取り組みの現状」など加盟団体が取り組んでいる課題や運動について学習会を開催したこと、新型コロナウイルス感染拡大のもとで街頭宣伝行動は中止せざるをえなかったが「医療・介護の負担の中止を求める請願署名」などに取り組んだことなどを報告した。

また2020年度の活動方針の柱として、引き続き自治体キャラバンや学習活動、署名宣伝活動、無料相談活動などに取り組む方針が採択された。新年度役員体制として、逝去された八木秀満先生に代わって、綿谷茂樹支部長が会長に新任された。

記念講演では、神戸大学大学院人間発達環境学研究科の井口克郎准教授が「住み慣れた地域に住み続けるための社会保障—コロナ禍・災害、防災の視点を踏まえて—」をテーマに講演した。井口先生は、憲法と戦後日本における社会保障の発展を振り返り、健康で文化的な生活は国民の権利であり国は基本的人権の保障義務があること、にもかかわらず政府の社会保障抑制策は国民に痛みを求め、2000年代以降は「格差社会」が深刻になっていると批判した。また、東日本大震災などで現在の社会保障の脆弱性が明らかになったと分析し、日頃取り組んでいる市民運動は防災にも直結していることをわかりやすく解説した。